

東北を基盤に、
世界一の魅力ある
コンパクトカーを
つくります。



環境報告 2020



トヨタ自動車東日本
TOYOTA MOTOR EAST JAPAN

TMEJ <http://www.toyota-ej.co.jp>

環境保全の取り組み

環境マネジメント

低炭素社会の構築

循環型社会の構築

自然共生社会の構築

当社はISO14001に基づいた環境マネジメントシステム（EMS）を構築し、運用しております。2017年9月には、ISO14001新規格への対応と同時に、全拠点を統合した外部認証を取得しております。これにより全社一丸となって環境保全に取り組んでおります。また、環境負荷低減を通じて、SDGsの達成に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標(SDGs)は2015年9月に国連総会にて採択された、2030年までに人類が達成すべき17の目標と169のターゲットです



環境に関する取り組みの基本方針

当社はトヨタ自動車（株）の「トヨタ地球環境憲章」を受け、「環境に関する取り組みの基本方針」を2012年7月に制定し、下記6つの柱で活動しております。全社と各事業所の環境会議を中心とした取り組み体制とし、さらには連結子会社とも連携して、環境保全活動を推進しております。

<トヨタ地球環境憲章>

1. 豊かな21世紀社会への貢献

豊かな21世紀社会へ貢献するため、環境との調和のある成長を目指し、事業活動の全ての領域を通じて、ゼロエミッションに挑戦します。

2. 環境技術の追求

環境技術のあらゆる可能性を追求し、環境と経済の両立を実現する新技術の開発と定着に取り組みます。

3. 自主的な取り組み

未然防止の徹底と法基準の遵守に努めることはもとより、地球規模、及び各国・各地域の環境課題を踏まえた自主的な改善計画を策定し、継続的な取り組みを推進していきます。

4. 社会との連携・協力

関係会社や関連産業との協力はもとより、政府、自治体を始め、環境保全に関わる社会の幅広い層との連携・協力関係を構築していきます。

<当社の環境に関する取り組みの基本方針>

1. 国・地方自治体などの環境法規制及びその他の要求事項を遵守するとともに、車の生産により環境へ及ぼす影響を予測・評価して、環境保全の維持・向上に努めます。
2. 開発段階から軽量化、リサイクル性の向上、環境負荷物質の低減等に積極的に取り組み、環境負荷の低減とお客様に喜ばれる製品づくりを推進します。
3. 社員の環境保全意識の向上を進め、一人ひとりが自覚と責任を持って循環型社会形成をめざします。
4. 地域社会とのコミュニケーションを充実するとともに、地域における環境保全活動に貢献します。
5. 緑豊かな自然との調和を考え、環境マネジメントシステムを継続的に改善して、環境負荷の低減を図ります。
6. この環境方針達成のため環境目的・目標を設定し、定期的に見直すとともに、必要に応じて改訂します。

環境会議

当社の重要環境課題について対応の方向付けを行い、環境保全活動の推進を図ります。

宮城大衡工場 環境会議

宮城大和工場 環境会議

岩手工場 環境会議

東富士総合センター地区環境会議

本社地区環境会議

事業所毎の環境保全活動の
検討と推進を図ります。

オールTMEJ 環境会議

当社の連結子会社と環境関係情報の
共有化を図り、連携して環境保全活動を
推進します。

トヨタ環境チャレンジ2050の実現に向けた取り組み

当社はトヨタグループの一員として、トヨタ自動車（株）が2015年10月に発表した「トヨタ環境チャレンジ2050」の実現に向けて取り組んでおります。2050年までの長期的な取り組みを着実に推進するために、5カ年ごとの中期環境取り組み計画＝環境取組プランを策定し、計画的に実行しております。



世界各国、各企業が積極的に推進しているCO₂排出量低減を受けた、「2050年工場CO₂ゼロチャレンジ」の実現に向けて重点推進しています。

定期的の開発部門、ものづくり各研鑽部（生産技術部門）、工場の関係者が参集。

トヨタグループ各社とも連携しながら、革新技術を計画的に導入する検討を進めています。



関係者が一同に集まり、
革新技術導入の進め方を議論して活動推進

環境取組プランの策定と推進

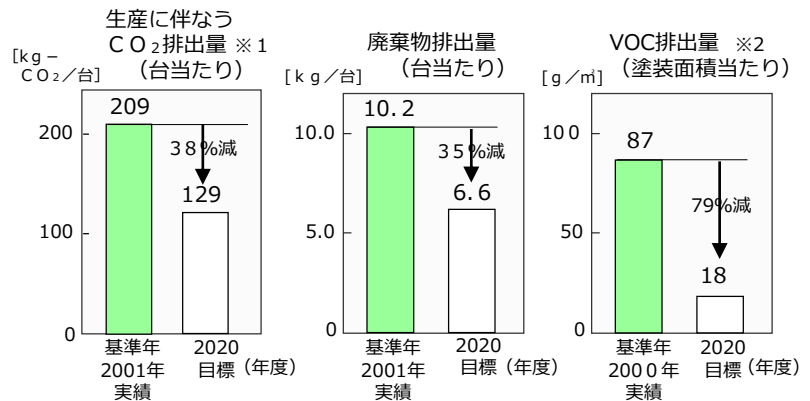
長期的なビジョンを具現化するために、5カ年毎に環境取組プランを策定して取り組んでいます。5年後の到達目標を定め、実行計画を策定し、着実に環境負荷低減を進めております。

こうした環境取組プランは1993年に第1次を策定し、以降5年間ごとに策定、実行してきました。2020年を最終年とした第6次プランが完了し、2021年～2025年の第7次プランを推進中です。



第6次環境取組プランの推進

当社は2020年度までの中期環境取組計画＝第6次環境取組プランを策定して取り組んで参りました。本プランでは「低炭素社会」「循環型社会」「環境保全と自然共生社会」を3本柱にして活動を推進し、全項目目標達成しました。



※1 ボディ・塗装・組立工程が対象

※2 Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物) の略で、塗料やシンナー等に含まれるトルエン・キシレンなどが代表的な物質

「第6次環境取組プラン」の最終年に当たる2020年度は、全社が一丸となった取り組みの推進により、全ての項目で目標を達成することができました。

	項目		目標達成状況 (2020年度)	主な活動内容
			<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 10px; height: 10px; border: 1px solid black; background-color: white; margin-right: 5px;"></div> 目標 <div style="width: 10px; height: 10px; border: 1px solid black; background-color: #90EE90; margin-left: 10px; margin-right: 5px;"></div> 実績 </div>	
低炭素社会の構築	生産	CO ₂ 排出量	<p>[kg-CO₂/台] 129 129 台当たり</p> <p>[千t-CO₂] 104 94 総量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● CO₂低減アイテムの横展と日常改善の推進 ・ 乾燥炉の立ち上げ時間の短縮化 ・ 稼働後のエア供給停止によるロス低減 ・ 生産負荷に合わせた加熱炉の寄せ止め
	物流	CO ₂ 排出量	<p>[千t-CO₂] 10.0 9.7 総量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 積載効率向上や混載化の推進
循環型社会の構築	生産	廃棄物排出量	<p>[kg/台] 6.6 6.4 台当たり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● リサイクルと発生源対策の推進 ・ 部品梱包材の有価物化推進 ・ 塗装工程で発生する汚泥 ※1 の脱水化 <p>※1 ボディの塗装過程で発生する塗料が固化されたもの</p>
	物流	梱包資材使用量	<p>[t] 609 457 総量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 梱包材の材質変更によるリサイクル推進等
	生産	水使用量	<p>[m³/台] 2.0 1.6 台当たり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 水の再利用や節水活動の推進
環境保全と自然共生社会の構築	生産	VOC ※2 排出量	<p>[g/m²] 18.0 14.6 塗装面積当たり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 塗装の塗着効率向上 ● 洗浄シンナーの使用量低減・回収率向上 <p>※2 Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物) の略で、塗料やシンナー等に含まれるトルエン・キシレンなどが代表的な物質</p>